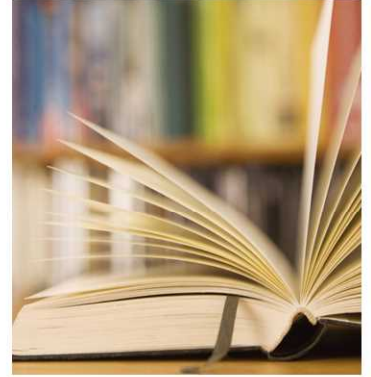


個別の指導(支援)計画の 作成と活用について



福井県特別支援教育センター

個別の指導（支援）計画（個別の教育支援計画・個別の指導計画の略）の作成と活用についてお話しします。

4つのポイント

- 1 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは
- 2 個別の指導（支援）計画を作成するときに大切にしたいこと
- 3 個別の指導（支援）計画作成のプロセス
- 4 個別の指導（支援）計画の活用
～次につながる評価を～

今回お話するポイントは、この4つです。

1 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは

個別の**教育支援計画**とは

- 乳幼児から学校卒業後まで通じて、長期的な視点で、一貫して的確な支援を行うことを目的としている。
- 教育のみならず、医療、福祉、保健、労働等の関係機関の密接な連携協力を確保し、教育的支援を行うために作成、活用するもの。

その子の生涯を支えるための 連携ツール

はじめに、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」について説明します。

「個別の教育**支援**計画」の説明です。

個別の**指導計画**とは

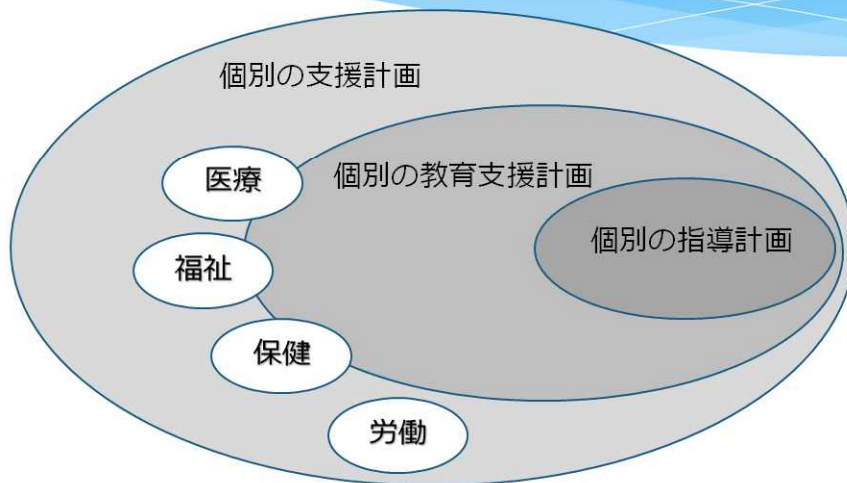
- 一人一人の児童生徒に対して効果的な指導を行うために、個人の指導目標、内容・方法をきめ細かく具体的に表したものを。
- 学校における指導や支援の内容や方法を明確にし、教職員間および保護者と共有することを目的とする。

指導について きめ細かく具体的に表したもの

「個別の指導計画」の説明です。

「個別の指導計画」は、指導に関することなので、学校の指導や支援について、校内や保護者と共有することが目的となります。

いろいろな支援計画



支援計画には、いろいろなものがあります。

障がいのある子ども一人一人のニーズに対応した支援を効果的に実施するためのものが「個別の支援計画」です。

特に教育に特化したものが「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」です。

何のためにつくるのか

- ①一人一人の障害の状態に応じた**きめ細かな指導**のため
- ②目標や指導内容、児童生徒の様子等について、関係者間の**共通理解、校内体制づくり**に役立てるため
- ③個別的な指導だけでなく、**集団の中での個別的な配慮・支援**についても検討できるため
- ④指導を定期的に評価することにより、**より適切な指導への改善**につなげるため
- ⑤引き継ぎの資料として、**一貫性のある指導**を行うため
- ⑥**本人、保護者との合意形成**を図り、よりよい支援につなげていくため

この「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成する目的は、主にこの6点です。

最も大切なのが、⑥です。

学校だけで本人の困り感や指導について考えていくのではなく、本人の思いや、保護者の願いを聞き取り、本人・保護者・学校が納得して支援を行っていくためのツールとして、個別の教育支援計画や、個別の指導計画を作成し、活用します。

「合理的配慮」とは

- 他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享受・行使するために、**必要かつ適当な変更・調整を行うこと**
- 学校教育を受ける場合に**個別に必要とされるもの**
- 学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、**均等を失した又は過度の負担を課さないもの**

中央教育審議会初等中等教育分科会報告（平成24年7月）

「合理的配慮」は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じ、設置者・学校及び本人、保護者により、発達の段階を考慮しつつ合意形成を図った上で提供されることが望ましく、その内容を**個別の教育支援計画に明記**することが重要である。

文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針（平成27年11月）

平成24年の中教審報告で「合理的配慮」について示され、平成27年には、文科省から対応指針も出されています。

合理的配慮とは、本人や保護者・学校・関係者が納得できるようなつまり合意形成がなされた支援であることがポイントです。

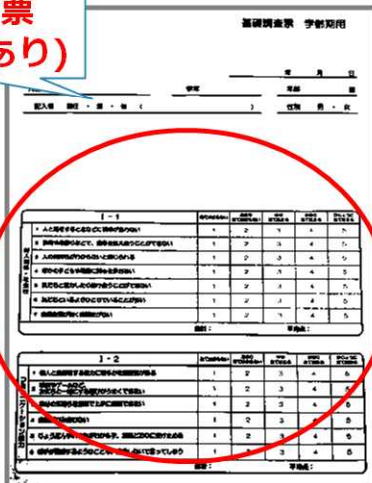
学校現場では、本人や保護者から、合理的配慮の要請があった場合は、過度の負担でない範囲で、一人一人の実態に応じて提供されるものです。

それを、個別の教育支援計画や、個別の指導計画に明記することで、校内や学校間で合理的配慮を引き継いでいくことが求められています。

2 個別の指導（支援）計画を作成するときに大切にしたいこと

ポイント① 実態把握は複数の目、複数の視点で!!

基礎調査票
(数ページあり)



子育て
ファイル
ふくいっ子
の活用

評価シート



次に、「個別の指導（支援）計画」を作成するときに大切にしたいことについてお話します。ポイントは3つです。

「個別の指導（支援）計画」を作成するときに大切にしたいポイント①は、実態把握を複数の目、視点で行うことです。

これは、「子育てファイルふくいっ子」にある基礎調査票・評価シートです。

「子育てファイルふくいっ子」の49ページから54ページまでが、小・中学生のものになります。

基礎調査票は、本人の行動や状況を把握することがねらいです。本人をよく知っている大人が記入します。

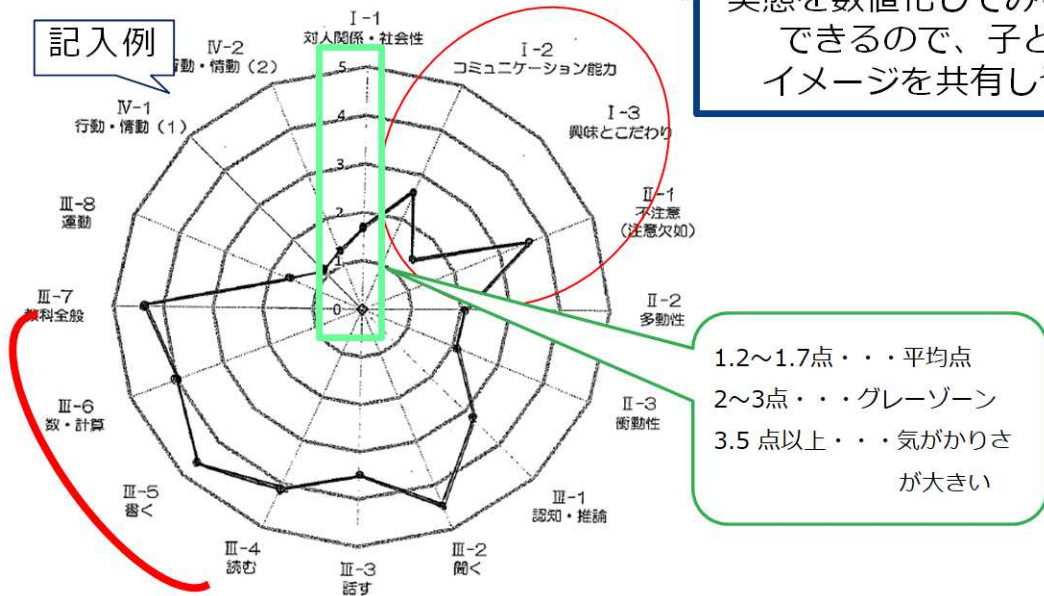
質問項目に対して、「あてはまらない」「かなりあてはまる」など、本人の実態にどの程度当てはまるかどうかを考え、丸を付け、各領域ごとに、平均点を割り出して、評価シート、レーダーチャートに記載し、気がかりな項目について確認していきます。

ただし、知的特別支援学級に在籍する児童・生徒は、苦手さが数字として表しにくいので、通常学級、自閉症情緒障害学級在籍の児童・生徒向きと言えるかもしれません。

一度、学級の児童・生徒を客観的に把握するためにも活用してみてください。

評価シート

実態を数値化してみることが
できるので、子どもの
イメージを共有しやすい



これは評価シートに実際に記入されたものです。

中心を0とし、一番外側が5になっています。

数字が大きいものが苦手なところ、数字の小さいものはうまくいっているところ、と捉えます。

1.2~1.7が平均点です。 2~3点はグレーゾーンとされています。

3.5以上が気がかりさが大きい項目です。

このレーダーチャートを見ると、読み書きに関する項目の平均点が4点を超えるものが多く、学習面の苦手さが目立ちます。

それに比べてコミュニケーションや興味とこだわりに関する項目の平均点が低く、友達との交友関係、生活に支障をきたすようなこだわりは少ないことが分かります。

このように、実際に活用してみると、子どもの実態を数値化してみることができるので、子どものイメージを関係者と共有しやすくなります。



子どもの姿を、複数の目から語ることが大事!

基礎調査票や評価シート、
交流学級での様子、
家庭での様子



話し合い
聞き取る



記録する

「発達状況シート」を記録用紙として活用

- ✓ 情報の偏りを防ぎ、実態の全体像を把握できる。
- ✓ 得意なことを支援方法に活かすように意識することができる。
→支援の方向性を見つけやすい

先ほどの評価シートの各項目から、実態把握を複数の目や視点で話し合い、気になる部分や本人が困っていることを、**発達状況シート**に転記していきます。

この発達状況シートは、子育てファイルふくいっ子55ページにあります。

特別支援学級が複数学級ある場合は、もう一学級の先生にも転記した発達状況シートを見てもらい、子どもの姿を話し合しましょう。

交流学級担任の先生や児童生徒にかかわる校内の先生、そして保護者からも聞き取りをします。

これらの話し合いや聞き取りの中で、さらに本人が困っていること、気になったところ、配慮や工夫していることも記録します。

発達状況シートはすべて埋めなくても構いません。

子どもの姿を複数の目から語ることが大事なポイントです。

その際、発達状況シートを、話し合いの記録用紙として活用してみましょう。

発達状況シートには、「社会性」、「コミュニケーション」、「不注意」など、項目が書かれていますので、情報の偏りを防ぎ、子どもの全体像を把握できます。

また、得意なこと、好きなことを書く欄があることで、苦手なことばかりではなく、得意なことにも注目し、支援方法に活かすように意識することができます。

ポイント② 自立活動の視点を盛り込みましょう

自立活動の指導とは？

自立活動の指導は、**個々の子どもが自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動**です。
自立活動の内容は、**6区分 27項目**で構成されています。



詳しくは、「学習指導要領解説 自立活動編」を！



区 分	項 目
1 健康の保持	① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善
2 心理的安定	① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲
3 人間関係の形成	① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎
4 環境の把握	① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性への理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
5 身体の動き	① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行
6 コミュニケーション	① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション

「個別の指導（支援）計画」を作成するとき大切にしたいポイント②は、学習面ばかりでなく、その子の**自立活動**の視点を盛り込むということです。

ここからは、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所が作成した「**自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！**」のパンフレットを使って説明します。

自立活動の指導は、**個々の子どもが自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動**です。

詳しくは、「学習指導要領自立活動編」を参照にしてください。

下の表が、自立活動の6区分27項目です。小・中学校では、2 や 3、6の区分内容を指導することが多いようです。

失敗すると激しく落ち込むカノンちゃん



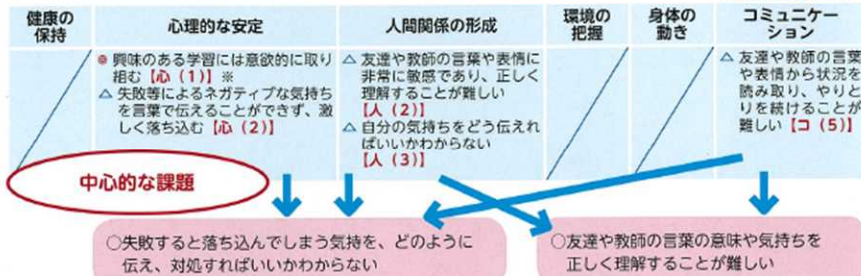
出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「自閉症のある子ども自立活動の指導について考えよう！」令和2年5月発行

まず、児童生徒の実態から内容を考えていきましょう。

子どもの実態からつきたい力（指導目標）と指導内容を考えましょう

カノンちゃんの自立活動の指導目標と指導内容を考えてみましょう

1 6区分で学習上・生活上の課題と長所やよさを整理して、
中心的な課題を考えましょう



カノンちゃんの場合、失敗をすると落ち込みが激しくなるのは、失敗することで友達や教師にどうみられるかを非常に気にしているからだと思います。そのため、自分の経験を振り返り、その時の自分の気持ちや友達の反応について整理し、正しく理解するとともに、落ち込んでしまう時にどうすればいいか、一緒に考えていくことが必要ですね。また、交流学級では、成功体験を積むことで、カノンちゃんが自分の得意なことについて知ることができると良いですね。



出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「自閉症のある子ども自立活動の指導について考えよう！」令和2年5月発行

つきたい力（指導目標）と指導内容を考えます。

6区分で学習上・生活上の課題と長所を整理して、中心的な課題を考えましょう。

2 長期目標と短期目標を考えましょう

長期目標

自分の気持ちや友達への反応を正しく理解し、状況に応じて自分の気持ちを伝えることができる

短期目標

自分の経験を振り返り、自分の気持ちや友達への反応について整理し、落ち込んでしまう時の対処方法を見つける

3 短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考えましょう

①自分の経験を振り返り、その時の自分の気持ちや友達への反応について知る。

- カノンちゃんがとらえる自分の気持ちについて、教師は共感的に受け止め、教師に言葉で伝えることで落ち着く経験を積む。【心 (1)】
- 成功した経験や失敗した経験について、注目してほしい観点(自分の気持ちや友達への反応等)を事前に明記したワークシート等を用いて振り返る。【人 (2)、(3)】

②落ち込んでしまう時の対処方法を見つける。

- カノンちゃんの学習意欲が高い内容を取り入れ、友達から良い評価をもらう等の成功体験を積み、自分には得意なことがあることについて知る。【心 (1)】
- 特別支援学級や交流学級での授業で振り返りを行う際に、学習や活動がうまくできなかった時の気持ちについて話し合い、友達はどんな対処をするかについて知ることで、自分にあった対処方法について考える。【人 (2)、(3)、コ (5)】

※【 】は、6区分27項目の内容を指します。

カノンちゃんは、「心理的な安定」と「人間関係の形成」の項目に関連付けは指導しましょう。



交流先の先生ともカノンちゃんの自立活動の指導目標を共有しましょう。

出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「自閉症のある子ども自立活動の指導について考えよう！」令和2年5月発行

個別の指導計画を作成するときには、1年単位の目標を長期目標にします。

短期目標は、学期ごとにたてるとよいでしょう。

また、短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考えましょう。

6区分の中の「心理的な安定」と「人間関係の形成」などの項目を入れて、自立活動の指導を行いましょう。

ポイント③ 保護者と共に作成しましょう



「個別の指導（支援）計画」を作成するときに大切にしたいポイント③は、保護者とともに作成するという視点です。

保護者との情報の共有は不可欠です。

学校・家庭が連携して、目標や支援方法を共有していくことを通して、本人の成長をともに支えていくようにしましょう。

個別の指導計画を**保護者と作成する**ための アイデア

例

- 保護者会や面談で保護者と一緒に作成する。
- 保護者会の記録用紙として、目標や支援の手立てを話し合いながら作成していく。
- 作成したものを保護者に掲示し、経過や近況を共有する。

情報の共有
のために

目標や支援
方法の共有
のために

学校・家庭で
連携した支援
のために

実際に保護者とどのようにして作成するかというアイデアをご紹介します。

例えば、保護者会や面談のときに、一緒に作成するとよいと思います。

保護者の願いや思いを聞き取る懇談会や面談を行う際に記録用紙として、「個別の指導計画の目標」や手立てを話し合いながら、作り上げていきます。

実際に行っている支援方法や今後行う予定の支援方法を、あらかじめ記入した「個別の指導計画」で確認してもらう方法があります。

また、保護者と決められた目標や支援、配慮について、本人がどうしたいか、本人の思いや意見も確認しておく必要があります。

先にも述べましたが、「合理的配慮」は本人や保護者の納得が不可欠です。

こうした視点を持って「個別の指導計画」を作成してください。

3 個別の指導（支援）計画作成のプロセス

個別の教育支援計画(プロフィール・シート)の書き方

個別の指導（支援）計画シート		小・中学校用	
<プロフィールシート>		現在の支援状況	
学校 平成 年度 学期			
記入日 平成 年 月 日 記入者			
氏名	性別	学年	担任
特別支援	特別支援	特別支援	特別支援
生	特	特	特
活	活	活	活
性	性	性	性
の	の	の	の
支	支	支	支
援	援	援	援
計	計	計	計
画	画	画	画
の	の	の	の
書	書	書	書
き	き	き	き
方	方	方	方
法	法	法	法
を	を	を	を
説	説	説	説
明	明	明	明
し	し	し	し
ま	ま	ま	ま
す	す	す	す
。	。	。	。

- ① 保護者、交流学級担任、学年主任などと情報共有しながら作成していく
- ② 課題となるところばかりでなく、得意なところやよいところにも着目して記入

「個別の指導（支援）計画」の書き方のプロセスについてお話しします。

まず、「子育てファイルふくいっ子」69ページの個別の教育支援計画（プロフィール・シート）の書き方を説明します。

これらの計画は、担任が中心になって作成します。

ポイントの1つめは、保護者、交流学級担任、学年主任など、特別支援学級の児童生徒に関わる先生方とも情報を共有しながら作成していくことです。

2つめは、課題となるところばかりでなく、得意なところやよいところに着目して記入していくことにも心がけましょう。

個別の指導計画（指導・支援シート）の書き方

個別の指導（支援）計画シート		小・中学校用	
<指導・支援シート>		氏名	
姓	名	学年	組
指導者		担任	
1年間の長期目標		指導・支援の目的	
学期の短期目標		指導・支援の内容	
月	日	指導・支援の具体的な内容	評価
指導・支援目標			
指導・支援の具体的な内容と役割分担			
実施日	曜日	進捗状況	評価
今学期の支援実績			
このシートは指導計画（支援計画）に添付されている。必要に応じて、このシートを複数枚作成し、指導計画（支援計画）に添付する。必要に応じて、このシートを複数枚作成し、指導計画（支援計画）に添付する。		<検印欄>	
作成者 年 月 日		指導者	校長

指導・支援目標：

「目標」の主語は子ども。

例：安定して1日を過ごす

評価がはっきりできる具体的な目標を設定する。

例：知っている単語を2～3個程度書けるようになる。

次に指導・支援目標です。

短期目標を受けて、各教科や領域において、具体的にできることを考えます。

目標の主語は子どもです。

例えば、「情緒の安定を図る」という目標ですと、支援者が主語になっていますので、「安定して1日を過ごす」という子どもが主語の表現で書きましょう。

また、目標は評価しやすい具体的な目標を書きましょう。

具体的な数や場面などを示すと評価しやすいでしょう。目標と支援が対応するように書きましょう。

指導・支援目標の書き方

【記入例】

指導・支援目標	場面・教科	指導・支援内容
漢字表を見て、1年生の漢字を使う	国語 学校生活全般 家庭	・漢字一覧用を用意し、書く活動の際にはそれを提示する。 ・間違えている部分に赤ペンで○をつけ、その部分のみ欄に書いて見せる。

ここがポイント!

- ✓ 「目標」は子どもが主語 「支援」は指導者が主語
- ✓ 「目標」と「支援」は対応させる

- ✓ 目標設定&支援内容は、具体的に記入!!

ex. × 「漢字を好きになる」 → ○ 「漢字一覧表を用意し、書く活動の際にはそれを提示する」
× 「声かけをして励ます」 → ○ 「間違いを見つけるなど、できたことを小声で伝えて励ます」

記入例を示します。

目標については、「漢字表を見て1年生の漢字を使う。という子どもが主語になる目標をたてたら、それに対応する指導者側の支援を書きます。

目標と支援は対応については、例えば、「漢字を好きになる」という目標はどうでしょうか？好きの基準は、人によって異なるので、この目標ですと、評価が難しいですね。

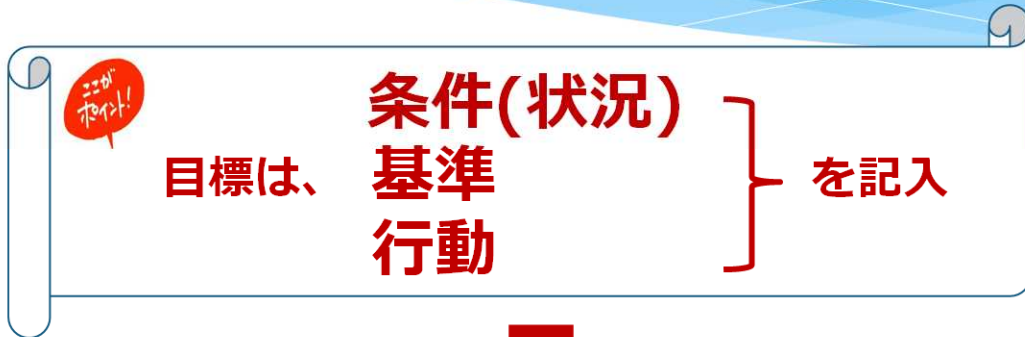
支援内容についても同様です。

「声かけをして励ます」では、どのタイミングで、どんな風に声をかければよいのか、分かりません。

「間違いを見つけるなど、できたことを小声で伝えて励ます」など、できるだけ具体的に書くように心がけましょう。

このように、具体的に示すことで、支援の目標や内容を誰が見ても理解でき、支援を評価・改善しながら、継続していくことができます。

達成できる、具体的な目標を設定する 実態把握が大切!!



↓
どんな状況下だとできるのかをよく見極める
目標設定は**スモールステップ**

目標を考える際の重要な視点について、今一度押さえておきたいと思います。

支援について考える際、例えば、立ち歩いたりよく喋ったりする子どもに対して、どうしても先生方は「しゃべらないで授業を聞く」「立ち歩かないで座っている」ということを目標にしがちです。

確かに、目指したい姿ではありますが、達成できる具体的な目標とは言えません。今それに困っているのだから、それを直接的に目標とするのも現実的ではないですね。

では、そのような子どもは、どんなときに立ち歩かなかったり、しゃべらなかつたりするのか、何分位なら我慢できるのでしょうか。そのあたりの実態をよく見極めて、目標設定には、スモールステップを踏むことがポイントです。

目標を設定するときのポイントは、条件(状況)、基準、行動の3つを記入することです。先ほどの例で考えると、「条件(状況)」は、「漢字表を見て」の部分になります。

「基準」は、「1年生の漢字を」の部分、「行動」は、「使う」となります。

「きちんと」、「しっかり」などの曖昧な表現は避けるようにしましょう。

個別の指導計画（指導・支援シート）の書き方

個別の指導（支援）計画シート 小・中学校用

<指導・支援シート>

得意（卒業後）の目標

1年間の長期目標

短期目標
月～日

指導・支援目標	場面	指導・支援内容	指導	評価
指導・支援の具体的な内容と実施計画				

実施日 学期 話し合われた内容（要約）

今年目標の達成状況

<特記欄>

この個別の指導（支援）計画に添付されている
シートは複製して、他の児童・生徒の指導に
使用することはできません。
（複製権等）平成 年 月 日

指導・支援内容：

「支援」の主語は指導者

例：毎日のスケジュールを一定にし、
写真で掲示する。

「支援」は工夫あるものを

例：ゲームの要素を取り入れながら
実物に文字を貼り付けたり、マッ
チングによって選択したりして楽し
んだ後、書く練習をさせる。

次に指導・支援内容です。

指導・支援の主語は指導者です。

また、指導支援については、児童・生徒の特性や発達段階に合わせ、工夫したものを書きましょう。

指導・支援内容を考える際のポイント

引き継がれていくべき
大切な情報は



生き生きと活動できる場面
良いところを生かす視点

- ・決められた言葉は言うことができる ⇒ 毎朝、保健室で出欠の報告をする係をお願いする
- ・決められた課題は最後まで取り組む ⇒ 図工の時間にみんなの手本係になってもらったり授業の導入時に作業的な活動を取り入れたりする。

指導・支援内容を考える際のポイントを押さえておきます。

指導・支援内容については、子どもの悪い点ばかりに注目して直すという観点でばかり考えてしまいがちですが、実は、生き生きと活動できる場面やよいところを生かす視点は、引き継がれていくべき大切な情報です。

例えば、決められた言葉言うことができるのであれば、毎朝、保健室で出欠の報告をする係をお願いするのも良いでしょう。

他には、決められた課題は黙々と作業に取り組める良さが見られたら、図工の時間にみんなの手本係になってもらったり、授業の導入時に作業的な活動を取り入れるなどもあります。

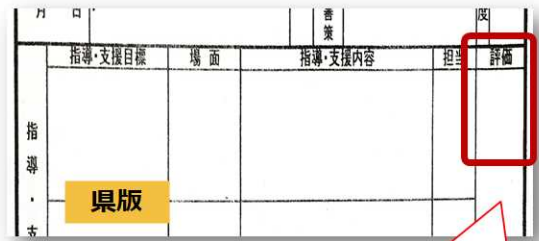
このように支援を考えていくと、本人の良いところと同時に、良いところを生かした支援が引き継がれていくこととなります。

4 個別の指導(支援)計画の活用～次につながる評価を～

評価の方法

【評価欄への記入】

- ・ 指導・支援内容の効果、継続の有無について記入
- ・ 県版はプルダウンで評価を選択



The image shows a table with columns for '指導・支援目標' (Guidance/Support Objectives), '場面' (Context), '指導・支援内容' (Guidance/Support Content), '担当' (Responsible Person), and '評価' (Evaluation). A red box highlights the '評価' column, and a callout bubble points to it with a list of evaluation options.

指導・支援目標	場面	指導・支援内容	担当	評価
県版				

記入方法として

- ・ 記録したことをもとに作成
- ・ 面談や支援会議で話し合いながら作成

- A : 十分に目標達成
- B : ほぼ目標達成
- C : もう少し継続が必要
- D : あまり効果が上がらず
- E : 全く効果が上がらず

最後に、次につながる評価をするための、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の活用についてお話しします。

「子育てファイルふくいっ子」70ページの評価について説明します。

評価についても、関係者で話し合いながら記入していただくと良いでしょう。

面談や支援会議の場で、参加者間で振り返りながら、記入していただいても良いと思います。

県版については、評価欄はプルダウン形式になっていて、A～Eの5段階の評価から選択するようになっています。

A～Eの評価の内容は、ここに示した通りです。

ただし、この評価は5段階のみで、具体的にどこがよかったのか、どこが改善が必要なのが見えにくいため、例えば、空欄に赤字で、有効だったことや改善の必要な点について、記入しておくとい良いでしょう。

保護者といっしょに見直しを

個別の指導（支援）計画シート		小・中学校用	
＜指導・支援シート＞		氏名	
将来（卒業後）の目標	<input type="checkbox"/>		
1年間の長期目標	<input type="checkbox"/>		
学期の短期目標	<input type="checkbox"/>		
短期目標 月～日	指導 内容	指導 内容	指導 内容
指導・支援目標	場面	指導・支援内容	担当 評価
指導・支援の具体的な内容と改善分限			
実施日	参加者	話し合いが	
今年以降の定期評価			
<small>※この個別の指導（支援）計画シートは、転校や休学などにより変更される場合があります。変更の際は、必ず変更する旨を保護者に知らせます。 (保護者署名) 年 月 日</small>		＜捺印欄＞ 担任 専任または実務科専任主任・他の支援者（アドホック） 校長	

学期ごとに計画や取り組みの見直しを

- ・ 保護者会などを活用する。
- ・ 保護者との共通理解を図る。
- ・ 保護者に署名、印をもらう。
- ・ 次の学期の計画について話し合う。

個別の指導（支援）計画については、学期ごとに見直しをすることが大切です。

保護者会などを活用しながら取り組んだことについて話していくとよいでしょう。その際に、有効だった支援、継続して行うという支援が何なのか、どんな力がついたのかなどについて振り返り、次の学期には、どのような目標や指導・支援内容で、進めていくとよいのかなどについて、保護者と一緒に考えていくとよいでしょう。

最後に、保護者に署名、捺印をもらうことも忘れないようにしましょう。

これらのシートは学年が上がり、担任が変わったときや進学の際の大切な引継ぎシートとしても活用されます。有効な支援を継続するためにも作成が必要です。

なお、学期ごとに作成となっていますが、学校によっては、前期・後期で作成するところもあります。

分からなければ、所属校の特別支援教育コーディネーターや、担当の特別支援学校の先生などにお聞きください。

**個別の教育支援計画、個別の指導計画は、
本人・保護者との合意形成を行い、
サインをもらったものが正式な書類となり、
保護者の了解を得た上で
進学先に引き継ぐことができます。**

※この「個別の指導(支援)計画に」記載されていることについて承認します。また、このシートを支援関係者に開示することを同意します。
(保護者署名) 平成 30 年 7 月 29 日
野比 玉子

<捺印欄>

担任	主たる支援者	学年主任・他の支援者	コーディネーター	校長
裁	印	印	印	印

保護者のサインをもらう時期や回数は、学校によってさまざま
大切なのは、保護者との合意形成

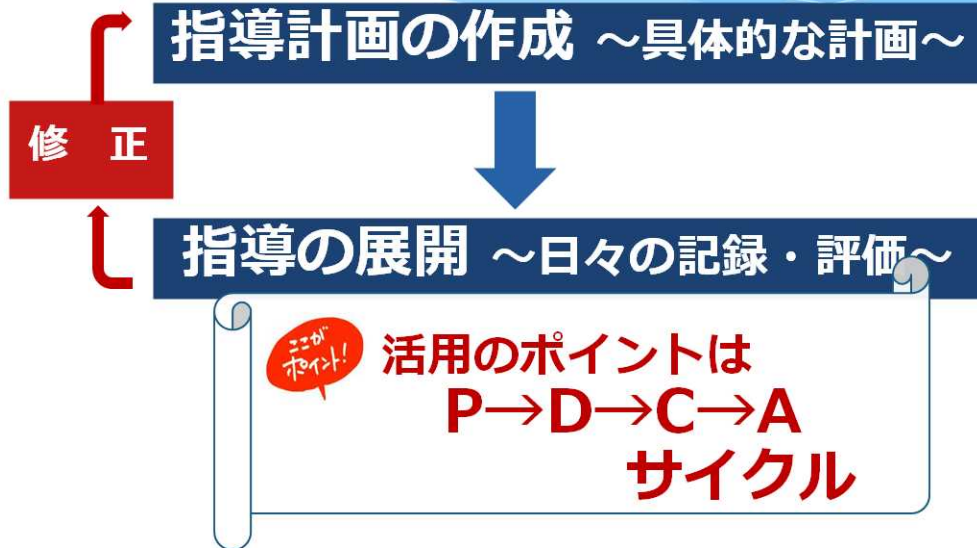
個別の教育支援計画・個別の指導計画は、本人・保護者との合意形成を行い、保護者の署名と捺印をもらうことで正式な書類となります。

保護者の了解を得た上で進学先に引き継ぐことができます。

サインをもらう時期については、学校によって様々です。

保護者と、合意形成がはかられた内容であり、それにサインがされる、というポイントを押さえておいていただけたらと思います。

最後に



大切にしてほしいことは、作成して終わりではなく、日々の指導を学期（または、前期・後期）の区切りで確認し、追加したり、次の目標へステップアップしたりして修正をすることです。

個別の指導計画の作成をとおして、PDCAサイクルを回し、日々の指導支援をより良いものに改善して欲しいと思います。